

「令和元年度 鳥獣害対策連続講習会 in 中丸・馬場・国府新宿・月京地区」

大磯町では、駆除に依存した鳥獣害対策から脱却し、野生鳥獣を寄せ付けない・増やさない地域づくりを進めるために、地区を単位とした連続講習会を開催しています。令和元年度は、イノシシ、シカ等の被害が出ている中丸・馬場・国府新宿・月京地区を対象に、下記のプログラムを実施し、正しい知識・ノウハウの普及と、今後の対策に向けた意見集約を進めました。

	実施日・プログラム	概要		
第1回	6月16日(日) 座学 (22名参加)	対策の基本的な考え方と、被害を克服している地域の事例について講師に解説していただきました。具体的には、イノシシやシカ等の被害は、人間が「エサ」と「ひそみ場」をつくって、鳥獣を寄せ付け、増やしてしまっていることが大きな原因であることを学びました。		
第2回	6月16日(日) 環境点検(住宅街) (10名参加)	住宅街を歩いて点検したところ、鳥獣をおびき寄せる「エサ」と「ひそみ場」が多くあることが分かりました。生垣やツル草の絡んだフェンスなどがひそみ場になること、ただし、それほど労力をかけずに見通し良く整備できることを講師に実演していただきました。また、庭木が大木になっている箇所が目立ち、鳥獣害対策と同時に、倒木被害を防ぐ意味でも早急に対応が必要であることを確認しました。	座学	環境点検(住宅街)
第3回	6月17日(月) 環境点検(農地周辺) (3名参加)	農地の周辺を歩いて点検したところ、鳥獣をおびき寄せる「エサ」と「ひそみ場」が多くあることが分かりました。また、あまり効果のないやり方で設置している柵が見受けられました。エサは農作物だけでなく、9月中旬以降に草を刈るとチガヤやススキが伸びずに、真冬に青草が伸びて、それがイノシシやシカのエサになることを学びました。		
第4回	9月28日(土) 対策の実践(住宅) (11名参加)	地面の掘り起こしなどの獣害を受けている住宅で、イノシシ・シカ・小動物などを寄せ付けないお庭づくりの実習をしました。①鳥獣のひそみ場にならない形に生垣を剪定し、②実の取り残しを減らし、管理もしやすいように庭木の果樹の樹形を改変し、③周辺の耕作放棄地の刈払いを行いました。	環境点検(農地周辺)	対策の実践(住宅)
第5回	9月28日(土) 対策の実践(農地) (10名参加)	イノシシ被害を受けている畑で、ワイヤーメッシュ柵の設置実習を行いました。同時に、動物を寄せ付けない畑にするための環境整備を行いました。①桑の木を除去して柵の周りでもエサを食べられないようにし、②柵の近くの草やブを刈払って動物のひそみ場をなくしました。こうすることで設置した柵が効果を発揮することを学びました。		
第6回	2月8日(土) 話し合い (4名参加)	この一年間の講習会で学んだ内容を振り返り、地域の課題と対策方法を再確認しました。被害は出ているが地域全体として問題意識が低いことが課題としてあがり、今後も地域全体で対策を呼び掛けていく必要があることを確認しました。	対策の実践(農地)	話し合い

～ 井上雅央 講師 プロフィール ～

京都大学博士(農学)。奈良県果樹振興センター等の勤務を経て、近畿中国四国農業研究センター 鳥獣害研究チーム長を歴任。退職後、島根県、熊本県等でアドバイザーとして継続的に活動。近著に「女性がやればすすん進む獣害対策」(農山漁村文化協会)。

■主催：大磯町有害鳥獣対策協議会

(事務局：大磯町産業観光課・環境課)

■協力：かながわ鳥獣被害対策支援センター、

湘南地域県政総合センター環境調整課、JA 湘南